

分科会よりの報告

*2回乗務員分科定期委員会開催!

ヤ次反各運転保安闘争強化を確認

国鉄千葉動力車労働組合乗務員分科会(動労千葉)は、1月21、22日の両日、外房荘において第二回定期委員会を開催した。動労千葉は、昨年5月19日、「動労の変質を正し真に階級的民主的な労働運動を推進する」立場から結成をもちと、以来、動労「本部」反動暴力集団の組織破壊攻撃と闘ってきた。同時に、ダイヤ検討委員会の充実化のための学習会開催、千鉄局の規程改悪の狙いを、専門委員会を設置して歯止めをする等、地道な活動の成果のもとに定期委員会開催の運びとなったものである。

乗務員分科は組織強化の中軸をになう

委員会は、沢副会長の開会のことは、深見執行委員から委員全員出席の報告と成立宣言が行われ、力強い拍手のなかにはじまった。

冒頭挨拶にたった白石会長は、「昨年は20年分を1年で経験したような年であったが、団結をかためあらゆる反動と闘いぬいてきた。この貴重な経験と教訓を生かし今後とも組織強化をはかりたい」と決意を明らかにした。

来賓として本部から、中野書記長、山口交渉部長が出席したが、挨拶にたった中野書記長は、「組合のやってはならない標本を示してくれたという点では、動労『本部』は『よい手本』を示してくれた。今日、動労『本部』は建前的にも35万人体制合理化反対の闘いを放棄し、逆に当局の尖兵として合理化を推進しようとしている。すでに東京三局に乗務員運用合理化が提案されているのが良い例だ。35万人体制合理化反対の闘いをぬきにして80年代労働運動の前進はない」と闘う方向性を明らかにした。

つづいて一般経過報告、決算、会計監査報告等が満場一致承認され、運動方針、予算案が提案され第一日目の議事を終了した。夜の会食では地元勝浦支部乗務員会よりのさし入れがあり、心ゆくまで味わいながら、和気あいあいの中で一年間の苦労話に花が咲き、明日への活力をたくわえた。

第二日目質疑応答の中では、①三里塚・ジェット闘争②55・10ダイ改③ローカル線廃止問題④転勤、転換養成の展望⑤高齢者対策⑥災害時の取扱い⑦10万キロ表彰等々、多くの意見が出され、中野書記長、山口交渉部長からより明解な答弁があり理解を深め、運動方針を満場一致で決定した。つづいて、79年度役員選出は、厳しい情勢のおりから全員留任とし、分科会がうって一丸となって闘うことを確認した。最後に、白石会長の力強い

団結ガンバローの音頭で委員会は成功のうちに閉会した。

決定された運動方針の骨子は

①35万人体制粉碎と結合した三里塚・ジェット闘争を軸に闘う。②35万人体制攻撃は、国鉄職場の作業・勤務体制の見直し等、全面的合理化攻撃である。③したがって、今日まで闘いとおってきた職場慣行を根底から破壊し、労働組合から戦闘性を奪い産業報国化させるものであり、第二マル生攻撃である。④それゆえに当局に屈服加担するのではなく原則的に対決し、今日まで勝ちとってきた全国的にも誇りうる労働条件を断固として死守し発展させる。

その具体策として

- 1、各線区実態調査を行い運転保安闘争を強化する。
2、乗務員運用効率アップの合理化案に対して絶対反対でとりくむ。
3、高齢者対策(構内電運・機士の設置拡大)をより強化する。
4、内達、刑事事件対策等の学習会を実施する。

東京三局より提案された動力車乗務員(電車)運用合理化(79.12.20)

Table with 3 columns: 区別 (山手, 池袋, 大船), 現 (東京品川), 行 (小田原), and 改 (東京品川, 大船, 小田原). Includes numerical values like (181.4), (274.4), (138.0), (207.0).